

国際規格の動向-国際会議に出席して-

須賀茂雄

ISO/TC156/WG7(金属及び合金の腐食)**ドイツ・ベルリン国際会議**

2013年6月11日から13日までベルリン(ドイツ)で開催された。WG7(腐食促進試験)の会議には、スウェーデン・米国・中国・英国・チェコ・ドイツ・日本の7ヵ国・13名が参加し、次の項目について審議が行われた。コンペナーが急遽出席できないとの連絡があり、スウェーデンのMr.Engstromが代理で審議が行われた。

(1) ISO 9227(塩水噴霧試験方法)

ドイツより新規提案が行われ承認された。提案者不在で不明点が多く一部のみの審議で終わったが、多くの審議事項は受け入れがたい提案であった。他の不明点は、DINが調査の上、後日報告する事になった。新規提案とは成り難い提案ではないかと日本より指摘したが、新規提案として認められている以上、不明点を明らかにして、WD2とすべきとの事であった。

(2) ISO 11474(屋外暴露試験方法)

スウェーデンより、後日改正提案がされる予定である。

(3) ISO/TR 16335(腐食促進試験方法のガイドライン)
近々にTR 16335の回送が始まるとの報告があった。

(4) ISO/FDIS 16701(温湿度制御下での間歇塩水スプレー)

VOLVO社で行われている試験法が改正になり、それに伴うISOの改正である。各国から文書上のコメントがあったが、プロジェクト・リーダーが不在の為、一部の不明点が解決されなかった。特に気になる国があれば、Mr.Engstromに連絡する事となった。場合によっては、FDISの回送を遅らせるとの事であった。

(5) 次回の会議は、2014年5月27日から30日に米国・ヒューストンで開催予定。

ISO/TC35/SC9/WG31(ペイント及びワニス)**カナダ・モントリオール国際会議**

2013年6月24日にモントリオール(カナダ)で開催された。ドイツ(4名)、オランダ(3名)、アメリカ(4名)、スイス(1名)、英国(1名)、日本(3名)の6ヶ国・16名が参加し、審議した。

(1) ISO 2813(グロス)

1-1. 3.3 のNOTE 4 (1.567 at 546.1 nm)は、採用。

1-2. C光は、D65光とすべではないかと発言したが、長い間C光を採用しているので、すぐにD65光を採用するのには無理がある。過去に光源を変えた事があったが、全ての色に関してデータを取らなければならないと大変な作業だった。今後D65光も考慮すべきであろう、その際には、C光とD65光での違いを明確にしなければならない。以上の理由でD65光の採用は先延ばしとなった。

(2) ISO 7784-3(スガ摩耗試験)

改正案の内容がおかしいと発言し、須賀がPL(プロジェクトリーダー)となり改正を進める事となった。

(3) ISO 11997-1(サイクル試験)

サイクルB(ドイツ提案)の移行時間が規格では45分以内であるが、実際は60分かかる。これは規格制定当初からであり、規格の45分が間違えである。従って60±15分とする事となった。

(4) ISO 9227(塩水噴霧)

TC156での内容を説明した。

(5) ISO 6270-3(湿潤試験)

JISの試料回転式について発言した。PLは田中主査として、NWIPを日本より提出する事とした。

(6) 新規提案として、須賀より来年の会議に写像性を提案するとした。

ASTM G03.03 (Weathering and Durability)**カナダ・モントリオール会議**

須賀茂雄

2013年6月25日にモントリオール(カナダ)で開催された。

(1)キセノン ASTM G155-05a.

Black Panel TemperatureはInsulated Black Panel Temperatureとする。BPTと槽内温度両方測定すべき。 60W/m^2 (300~400nm)と 0.51W/m^2 (at340nm)の違いについて話し合われた。

ASTM E12 (Color and Appearance)**アメリカ・ゲイザースバーグ会議**

校正部 次長 喜多英雄

2013年6月26日から27日にゲイザースバーグ(アメリカ)で開催された。色彩関係の規格についての委員会で、E12.01(用語)では、変角測色関係の用語、E12.07(表色系)ではマンセル・NCS、E12.05(蛍光)では、コンピューターカラーマッチングでの問題、E12.03(幾何条件)では、光沢、像鮮明性、ビジュアルグロス、E12.02(分光光度計・測色計)では、各測定方法の規格について話し合われた。E12.12(変角測色)では、BYK-GardnerからBYK-MACのプレゼンテーションが行われた。

IEC/TC104 (環境条件、分類及び試験方法)**スウェーデン・シスタ国際会議**

製造本部 技術開発部 課長 齋藤公平

2013年7月8日から12日までシスタ(スウェーデン)で開催された。シスタは産官学連携のサイエンスシティであり、エリクソン社の誘致を契機に、多数の企業が進出した都市である。今回の会議で主に当社と関係のあるMT16 (IEC60068-2-60: 混合ガス流腐食試験) 及びMT18 (IEC60068-2-5: 地表レベルの擬似太陽照射及び指針) について報告する。
(1)MT16 (IEC60068-2-60: 混合ガス流腐食試験)
アメリカ(1名)、中国(1名)、ドイツ(2名)、スウェーデン(2名)、日本(3名)の5ヶ国9名が参加した。当社より提案した104/601A/CD(Committee Draft)を元

に、各国(日本、イタリア、チェコ、フィンランド、ドイツ、中国)からのコメントを審議した。試験中の温湿度条件にアジア地域を想定した 40°C 80%rhは、Table 1のNoteに記載する事になった。また試験精度を確認するための銅片による腐食増量試験について、試験時間は4日(96時間)とする事になった。その他日本の提案は概ね受け入れられたため、次ステップとして2013年11月末までにCDV (Committee Draft for Vote)を提案する事となった。
(2)MT18 (IEC60068-2-5: 地表レベルの擬似太陽照射及び指針)

アメリカ(1名)、中国(3名)、ドイツ(2名)、スウェーデン(3名)、イギリス(2名)、フィンランド(1名)、韓国(1名)、日本(3名)の8ヶ国16名が参加した。ドイツよりCD文書が開示され審議を行なった後、当社よりプレゼンを行なった。本規格は試験を行なう上で必要な項目(光源のフィルタ条件、BPT・BST温度、湿度など)が記載されていないため、一般的な条件を提示した。次ステップとしては、当社からの提案を盛り込み、ドイツがCDを作成する事となった。

AIC2013 国際色彩学会

校正部 次長 喜多英雄

第12回国際色彩学会が2013年7月8日から12日までニューキャッスル(イギリス)で開催された。ポスターセッションでHugh FAIRMAN氏、Jack LADSON氏と共に当社喜多が「The Assessment of Uncertainty in Spectrometry (分光測光における不確かさの評価)」について論文発表を行った。



IEC/TC104 会議風景